

大道芸アジア月報 2025 年 1 月

vol. 37, no. 1

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

- 大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>
- 大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>
- 名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>
- しずおか大道芸の街 <http://shimarusukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>
- ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、） <http://daidoge.jp/>
- お台場・デックス東京ビーチ ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com
- 東京都ヘブンアーティスト <https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/heavenartist/>
- 中部大道芸ネットワーク <https://www.facebook.com/mrkrddg>
- 仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★浅草雑芸団の旅

- 1月2日（木）井の頭自然文化園・お正月の祝福芸 <https://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/eventlist/>
- 1月3日（金）すみだ川七福神・はるこま七福神めぐり <https://www.sumidagawashichifukujin.com/>
- 1月4日（土）すみだ郷土文化資料館・資料館でお正月！ https://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryoku/kyoudobunka/
- 1月11日（土）14：00 メイカセブン・雑芸サロン（江戸川区大島・中の橋商店街）

★今月の大道芸公演

- △安城の三河万歳 https://www.instagram.com/anjo.manzai/p/DDwFX4iPjfp/?img_index=1 ○安城市内七ヶ所の神社
 - 1月1（水祝）0：00 不乗森神社、上条白山媛神社、北明治稲荷社
 - 0：25 白山比売神社、大岡白山神社 0：30 南明治八幡社 0：50 日本木八幡社
- △特別史跡名古屋城冬まつり <https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/event/> ○名古屋城
 - 1月1（水祝）9：00 名古屋城初開門 10：00 御殿万歳
- △伊勢内宮おかげ横丁新春郷土芸能 2025 <https://okageyokocho.com/> ○伊勢神宮内宮おかげ横丁
 - 1月1（水・祝）：伊勢万歳 / 11（土）恵利原の早餅つき / 13（月・祝）入江和歌囃子 / 八幡獅子舞
 - / 19（日）伊勢大神楽 / 26（日）浜田大山車の舞獅子
- △KYOTO 大道芸祭 2025 <https://x.com/npokpa/status/1859522136991252946> ○京都地下鉄「御池」ゼスト御池地下街
 - 1月2（木）3（金）
 - 池田洋介、チムチムサービス、SUKE3&SYU、ブンブク、PESTRICA、加納真実、シンクロニシティ、ロッキィ〜、リスボン上田、プリコロハウス、おんぷらんと、Balloon-Syotaro、東雲ゴールド、Mr. Kids
- △第 20 回徳川園新春万歳 ○名古屋・徳川園ガーデンホール
 - 1月3（金）11：00&14：00 <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=961402189349059&id=100064378611822&set=a.471683068320976>
 - 今枝社中 特別出演：十二代目上羽太夫・二代目早川伊右衛門
 - 料金：徳川園入場料（大人 300 円、中学生以下無料）のみ ※先着順 90 名
- △秋田万歳継承会 定期公演 2025 新春 <https://common3.pref.akita.lg.jp/bunka/detail.html?id=6072&cid=15> ○フォンテ AKITA6F
 - 1月5（日）13：15～14：45
 - 秋田万歳継承会
- △西尾市の三河万歳 <https://nishio.genki365.net/G0000001/event/5648.html> ○西尾市役所 1 階ロビー
 - 1月6（月）10：00 より
 - 西野町小学校の「御殿万歳クラブ」
- △第 20 回さいたま新都心大道芸フェスティバル <https://www.saitama-arena.co.jp/arena/> ○さいたま新都心・さいたまアリーナ
 - 1月11（土）12（日）11：00～16：00
 - 中国雑技芸術団、97's、3 ガガヘッズ、Asterisk NOVA、CHIKI、clown ものまる、EPPAI、GAKU、HIBI★Chazz-K、ideo2、izuma、Jaggler Laby、komatan、K-TARO、K 点軌道、Mr. BUNBUN、Performer SYO!、QENALPAN、SUKE 3 & SYU、Witty Look、加藤ひろみち、

Po-Yo Entertainer TOMMY、江戸糸あやつり人形、片腕のマジシャン HAKU、加納真実、川村健太、串田こうさく、芸人まこと、ココナツ山本、サクノキ、サンキュー手塚、松鶴家天太、シリヴブレ、ゼロコ、ソランポ・ソラン、チクリーノ、なつかよ、バーバラ村田、ひこひこ、プレルナ、まさきち、まる、目黒陽介、油井ジョージワンマンバンド、
[ウォーキング]音姫金魚、ガンジスインダストリー、DJ ROBOT OLIVE、Okk、
[定点アーティスト]アートパフォーマー★ファイター★、アストロノーツ、ボールド山田、コバヤシユウジ、松本かなこ、Shiva

△第16回新春恒例 尾張万歳 名古屋城本丸御殿公演 ○名古屋城本丸御殿孔雀の間

●1月12(日) 11:00開演 <https://www.facebook.com/photo?fbid=3953651904911396&set=a.2416050518671550>

今枝社中

料金:名古屋城本丸御殿入場料(大人500円、中学生以下無料)のみ。※要予約

△エンターテイメント亀戸! Vol.21 <https://www.kameidodaidoge.com/> ○亀戸十三間通り商店街

●1月12(日)

ブンブク、健山、エクストリーム芹川、齊藤 瞭、ハードパンチャーしんのすけ、スタチュー:レプリカさん、なにみてるの、PESTRICA、福呼び人形ひより、まるとるま、淳慶仏、回遊:紫穂、ジェンガ金次郎

△ヘブンアーティスト in 渋谷 <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/12/24/07.html> ○渋谷道玄坂ほか

●1月13(月祝) 13:00~15:30

絢乃テン、エキセントリック吉田、江戸糸あやつり人形、K点軌道、サクノキ、サブリミット、東雲ゴールド、Juggler Laby、森田智博、SUR DE WAVE、招福亭鶴笑一座、HIBI★Chazz-K、MARTINO

△ダメじゃん小出・新春18きつぷ <https://www.koideinoda.com/%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%AB/>

●1月25(土) 昼の部14:00 /夜の部18:00 ○横浜・にぎわい座のげシャール

前売り¥2100(当日¥2600)

申し込み: <https://nigiwaiza.yaf.jp/perform/archives/28778> (にぎわい座)

△ザ・芸能ゆうえんち in 東京 <https://tgy-2025.peatix.com> ○千代田区内幸町・イイノホール

●2月1(土) 13:30開演

「雅楽」瑞徳雅楽会・三田徳明雅楽研究会、「天狐」貫井囃子保存会、「獅子舞」東都葛西神楽保存会 岩楯美よ志社中
主催・全日本郷土芸能協会

入場無料:要申し込み(先着400名)

申し込み: <https://tgy-2025.peatix.com>

△ダメじゃん小出静岡漫談ライブ・葵のご紋に握りっ屁 vol.33 ○静岡市葵区江崎ホール

●2月1(土) 昼の部14:00/夜の部18:00 <https://www.koideinoda.com/%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%AB/>

前売り¥2800(当日¥3000)

申し込み: d-j-k@max.odn.ne.jp

△エンターテイメント亀戸! Vol.22 <https://www.kameidodaidoge.com/> ○亀戸十三間通り商店街

●2月9(日)

若林正の

食って極楽

意外な美味!

ドンキホーテ「粒ウニ」

このひと月ネタになりそうな外食に全く行けなかった。さんざん悩んだ末に今回は自炊のお話。

少し前にネットの記事で、ドンキホーテで販売している粒ウニの瓶詰めが安くて美味しいと書いてあったのを思いだし、家の近所にあるドンキに行ってみた。その記事にはひと瓶¥198とあり、ホントかいな(?)と半信半疑だったが、なんと!置いてあった。¥250とすこし高くなってはいたが、それでも安い。

子供の頃父親が晩酌のツマミにチビチビ舐めていた記憶があるが、そのまんまの形の瓶だ。たまに舐めさせてもらうと、甘くてしょっぱくてアルコールの香りが強いけど、コクがあって子供心に「こんな美味しいもの食べてズルい」と思ったものである。思わず四つ衝動買いしてしまった。瓶のラベルには卵かけご飯にして食べるのがオススメとあったが、思い立ってウニパスタを作ってみた。作り方は簡単で、茹でたパスタにバター、卵黄と共にウニを和えるだけ。お味はというと…不味くはないが少し微妙。というも、つい浮かれて二人前でふた瓶も使ったのが間違い。ウニの味というか甘さが強すぎて、くどくなってしまった。ウニ

の分量を減らして生クリームでも入れれば美味しく食べられたと思う。蕨のドンキにあるくらいだからこのドンキでも扱っていると思うので、気になる方は覗いてみてください。確かに安いので。



○正月はこれで決まり=5ワカ

現代サーカスとサーカス学校

上島敏昭

○サーカスという言葉と現代サーカス

新宿に「東京ミステリーサーカス」というビルがある。地下1階から5階まで、それぞれの階でイベントをやっているというが、謎解きゲームで、サーカス本来の曲芸軽業とはなんの関係もない、「体験型アトラクション」だ。最近、このテの、曲芸軽業とは縁のない「サーカス」をみかけることが多い。

現在、日本には、明治時代からつづく木下サーカスと、いずれも1990年以降に設立されたポップサーカス、ハッピー・ドリーム・サーカス、さくらサーカスの各団体が活動している。2010年にキグレサーカスが廃業したころに比べれば、サーカステントに出会う機会は増えたように思うが、けっしてサーカスが盛んとは思えない。にもかかわらず、〇〇サーカスと名乗る催しはよく見かける。おおいに違和感があるが、それだけ「サーカス」という言葉が魅力的なのだろう。

そんな機運と関係あるのか無いのか不明だが、「現代サーカス」という言葉を聞くことが多くなってきた。折から、10月2日、サーカス学会（大島幹雄代表）主催による、「サーカス学セミナー コンテンポラリーサーカスを考察する」という講演会がおこなわれた。講演したのは現代サーカスの研究者であるフランツィスカ・トラップさん。早稲田大学での授業のため来日したが、日本のサーカス研究者とも交流したいと、同学会に申し出があったのだという。演題は「現代サーカスの読み方とドラマトルギー」。早稲田大学の教室で行われた講演会には、学会員以外にもサーカスパフォーマーも聴講にきており、講演のあとは参加者と懇親会もおこなわれた。

○現代サーカスとは

私は懇親会には参加できなかったものの、講演会には参加し、末席で聴講させてもらった。現代サーカス＝コン

テンポラリーサーカスは、「伝統的」なサーカスに対して、「現代」なのだろうが、ばくぜんと使われているように思う。10年ぐらい前までは、「ヌーボーシルク」(Nouveau Cirque)と呼んでいたが、それすらも時代遅れとする団体やサーカス作品が現れた。それらに対する呼び名であろう。具体的には、曲芸軽業などの伝統サーカス芸を基礎としつつ、演劇、ダンス、音楽、映像、美術などを取り入れた、芸術ジャンルの境界を取り払った表現行為ということになるのか。しかしこのように書くと、「いや違う」という反論が出てくるのが「コンテンポラリー」の厄介なところでもある。

で、トラップさんの講義では、あえて定義などにはこだわらず、ヨーロッパのサーカスの新しい潮流を述べて、議論は懇親会で・・・というような内容だった。(大雑把ですみません)。それでも私にはとても興味深かったことがあるので、それだけ記しておきます。

一つは、「サーカスとはリスクの美学だ」と述べたこと。あまりにも文学的で定義とはいえないだろうが、サーカスの花形芸は、なんといっても空中ブランコや綱渡りなど、一つ間違えば命を落とす芸であることをおもえば、サーカス本質をついているように思う。もう一つは、伝統サーカスとヌーボーシルクの違いを、曲芸と曲芸のつなぎに歌をいれて全体をひとつのストーリー（物語）にしたことといい、ヌーボーシルクと現代サーカスの違いを、歌も曲芸も他の芸術も、渾然一体として、一つのテーマにもとづいた作品に作り上げると言ったこと。ヌーボーシルクの代表「シルク・ドゥ・ソレイユ」の作品を思えば、私にはこれも納得できた。

○サーカス・シルクール

そんな予備知識を得たところに、現代サーカスを標榜する「サーカス・シルクール」というグループが11月に来日、公演をおこなった。スウェーデンのストックホルムを拠点とするカンパニーで、2018年に来日し世田谷パブリックシアターで「LIMITS/リミ

ッツ」という作品を上演している。今回の作品は「ニットイング・ピース」で、世田谷パブリックシアターをはじめ、山口市、岡山市、名古屋市、富山市でも公演された。



舞台には一面、天井から毛糸が垂れ下がっている。開演五分前くらいにパフォーマーがあらわれて、舞台下手の隅っこで、転がっていた毛糸玉を拾って、手編みをはじめた。粗っぽい編み方だが、開演時間になると、ちょっといびつだが、肩掛けのような編み物に仕上がった。彼女がそれを羽織ると羽になった。真っ白なコスチュームの彼女は天使のようにも、悪魔のようにも見えた。彼女がそれを脱ぎ、ひと振りすると、糸はするするとほどけてステージ上に落ちていく……。鮮やかなオープニングに続いて始まった舞台は、あくまでも毛糸にこだわった曲芸と軽業。音楽はステージの奥で演奏する生音。ときにはパフォーマーがバイオリンを弾いたりもする。シルク・ドゥ・ソレイユのような娯楽性を目指さず、ただただスティックに表現に向き合う。その姿は、ある意味、潔い。なによりもウクライナやパレスチナを具体的に名指しするような場面や表現はひとつもないものの、明らかにそれらに対する抗議のメッセージを感じたのは、私だけではないだろう。

○サーカス学校発表会

12月14日、15日の両日、沢入国際サーカス学校（群馬県みどり市）の年末発表会があり、15日に見学に行った。2001年開校の同学校の恒例行

事だ。例年は卒業生も大勢出演して、にぎやかなサーカスショーを作るのだが、今回はあえて在校生と同校講師だけで、しかもそれぞれ個人の作品を発表する形にするとのことだった。一人ひとりの力量で、20分以上の舞台を作るというのは、かなり高い創作能力が要求される。いつもとは違った発表会になりそうだ。

開演 40 分ぐらい前に会場に到着すると、まだお客さんは数人しか集まっていない。理事長の西田敬一さんは「昨日は 40 人以上お客さんが来たんだけど、今日は少ないのかなあ」などと言っている。それでも開演するころには 40~50 人にはなっていた。私のように東京からやってくる者もいるが、地元の人と思われる子供連れの家族が多く、サーカス学校はずいぶん地域に親しまれていると感じた。

○佐合陽裕、森崇彰

最初の出演は佐合陽裕さん。ロープとメジャースケールを使って、それを鼻の上に乗るバランス芸などでお客さんを和ませたあと、ボールジャグリングとローラボーラを演じた。最後の演目では床に置いてあった演技エリアの境界を示す白いロープを立ち上げて、サーカステント風のモニュメントを造り、そのなかで演技をみせた。



次の森崇彰さんは、ディアボロのスペシャリストで、この夏のあいだヨーロッパで武者修行してきたとのこと。客席から登場したが、持っているのは一枚の布きれだけ。しばらくその布で遊ぶうちに、その中からディアボロが姿を現した。それをゾンビボールのように浮遊させたあと、ようやくディアボロの技に入った。これがトリッキーな技の連続。驚いたのはしばらく使う

と、なにかトラブルが起こった。失敗した! と思った途端、ディアボロがバラバラに分解した。金具が弛んだのだろうか、床に散らばった残骸をみながら、おもわずボーゼンとしてしまった。森さんもしばらく呆然としたあと、ふたたび布のなかから、今度はディアボロを 2 個取り出して、さらにトリッキーな技のパフォーマンスを始めた。結局、その 2 個のディアボロも最後はバラバラに分解して演技終了となった。ディアボロの分解が、技だったとは! もっともすごい仕掛けだとは思いますが、お客としては拍手のタイミングがつかめないのは、やや物足りない。



○油布直樹、渡辺翼

しばし休憩ののち、講師の油布直樹さんのパフォーマンス。ステージには直径 2 メートル弱の金属リングが吊ってあって、床には段ボール箱が散らかっている。演者が登場してダンボールの一つを開けるとおもちゃの楽器がでてきた。それで演奏したりしていると目覚し時計のベルが鳴り出す。どの箱に入っているのかわからず、大慌て・・・というようなお遊びがあって、空中リングの曲芸。その後、吊ってあったリングのロープをはずして床の上で転げまわるシルホイールの演技で締めくくった。

最後に特別出演として卒業生の渡辺翼さんが登場した。彼もディアボロのスペシャリスト。現在はおもにヨーロッパのフェスティバルを渡り歩いていて、さきほどパフォーマンスを披露した森さんのヨーロッパ武者修行にも力を貸した。彼も、森さん同様、客席から登場した。しかし森さんとは違い、どこからか白い粉を出して撒き散らしながら客席のなかを回る。彼は真っ黒な衣装でボサボサの髪。撒き散らす白い粉が体じゅう、髪の毛じゅう

に飛び散るので、汚いことこの上ない。お客は白い粉が服についたらたまらないから席を立てて逃げ回る。ちょっとしたパニックだ。杖のような棒を持っているが、よく見るとその先端は人間の手のように指がついているようだ。悪魔とかを暗示しているのだろうか。ディアボロのパフォーマンスも演じてはいるのだが、白い粉を撒き散らすのがあまりにも強烈で、そちらのことばかりが印象に残っている。たぶんシッカロールだろうが、姿が隠れるほど、まるで忍者の火遁の術の煙のように撒き散らすので、しまいには舞台も真っ白になっていた。



最後に全員そろって挨拶し、そこで各人がサーカス作品として何をやりたかったのかを述べた。白いロープでサーカステントを作った佐合さんは「サーカスごっこ」といい、森さんは武者修行の成果と風を表現したかったといい、油布さんは玩具箱をひっくり返すような舞台を作りたかった、渡辺さんは今回で卒業する森さんへのお祝いだと述べた。

サーカス学校は 2 名の生徒のうち、1 人が卒業なので、新年度は生徒 1 人になる。2001 年に学校がはじまったころとは、サーカスを取り巻く環境は大きく変わっている。理事長の西田さんは各地にサーカススタジオができて手軽にその技術を学ぶことができるようになったから、ともいう。群馬の山の中に籠もって修行するスタイルのサーカス学校はいまどき流行らないのだろうか。昨今の現代サーカスのうねりをみると、サーカススキルが表現芸術に求められていることは疑いようがない。経営的にはたいへんかもしれないが、サーカス学校はいまこそ必要なのではなかろうか。